

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会
第 89 回 原子燃料サイクル専門部会 議事録

1. 日 時：2022年2月1日（火）13：30～15：45

2. 会議方式：Web 会議

3. 出席者：（敬称略）

（出席委員）高橋部会長，加藤副部会長，田村幹事，浅野，飯田，大間，片岡，久野，小松原，齋藤，坂下，佐々木，澤田，白井，高橋（浩），立川，林，藤田，藤原，元辻，柳原，山本（武），山本（正）（23名）

（欠席委員）高橋（秀），中島（2名）

（常時参加者）川村（1名）

（欠席常時参加者）浅見（1名）

（オブザーバ）熊谷 守（日本原燃），竹内 博（日本エヌ・ユー・エス）（2名）

（説明者）【LLW 処分安全評価分科会】山岡幹事，中居委員

【リサイクル燃料貯蔵分科会】白井幹事

【LLW 廃棄体等製作・管理分科会】脇幹事，柏木委員

【LLW 放射能評価分科会】大畑幹事

【原子燃料サイクル専門部会】田村幹事（延べ7名）

（事務局）大沼，牧野，正岡（3名）

4. 配付資料

FTC89-0 第 89 回原子燃料サイクル専門部会議事次第（案）

FTC89-1 第 88 回原子燃料サイクル専門部会議事録（案）

FTC89-2 人事について

FTC89-3-1 “低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法：20XX 一中深度処分編”
標準原案の中間報告について

FTC89-3-2 “低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法：20XX 一中深度処分編”
標準原案

FTC89-3-3 “低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法：20XX 一中深度処分編”
標準原案（修正履歴あり）

FTC89-4 （口頭説明／配布資料なし）

FTC89-5-1 “浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XX—ドラム缶形態編—
（案）” 公衆審査ご意見への回答

FTC89-5-2 “浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XX—ドラム缶形態編—
（案）” 公衆審査ご意見への対応_変更点比較表

FTC89-5-3 “浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XX—ドラム缶形態編—
（案）”（公衆審査反映版）

FTC89-6 L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況について

FTC89-7-1 原子燃料サイクル専門部会 標準策定 5 年計画（2022 年度版案）

FTC89-7-2 新知見評価表（2022 年度版）

FTC89-7-3 埋設関連標準検討タスクの検討状況_第 2 回 AESJ 埋設関連標準検討タスク 議事録(案)

FTC89-8 2021 年度「倫理教育の周知徹底」に関する活動状況について

FTC89-9 分科会活動状況

参考資料

FTC89-参考 1 原子燃料サイクル専門部会委員名簿

FTC89-参考 2 原子燃料サイクル専門部会出席実績

5 議事内容

事務局から開始時、委員 25 名中、21 名が出席しており、成立に必要な定足数（17 名以上）を満足している旨が報告された。その後、審議案件中に 2 名が参加し、23 名の参加となった。

(1) 前回議事録（案）の確認（FTC89-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事（FTC89-2）

事務局から FTC89-2 に基づき、専門部会及び分科会の人事について以下の提案があり、分科会の常時参加者登録解除等が確認され、審議の結果、専門部会委員の再任等が決議された。

また、田村幹事から幹事退任の申し出があり、高橋部会長と加藤副部会長の協議のもと、幹事に藤原委員を指名する旨の報告があった。

【専門部会】

1. 決議事項

(1) 委員再任

齊藤 拓巳	東京大学	2022. 05～2024. 04
中島 健	京都大学	2022. 06～2024. 05
加藤 和之	原子力損害賠償・廃炉等支援機構	2022. 07～2024. 06

2. 確認事項

(1) 幹事退任

田村 明男	原子力安全推進協会	2022. 02. 01
-------	-----------	--------------

(2) 幹事指名

藤原 啓司	原子力環境整備促進・資金管理センター	2022. 02. 01
-------	--------------------	--------------

【分科会】

○リサイクル燃料貯蔵分科会

1. 確認事項

(1) 常時参加者登録解除

工藤 貴志	サイクル燃料貯蔵	2021. 10. 31
-------	----------	--------------

(2) 常時参加者登録承認

海老原 稚典	リサイクル燃料貯蔵	
--------	-----------	--

○LLW 廃棄体等製作・管理分科会

1. 承認決議事項

(1) 委員選任

上田 清隆	日立GEニュークリア・エナジー	
竹腰 直樹	日本原子力発電	
中瀬 辰男	関西電力	

2. 確認事項

(1) 委員退任

野口 裕史	日本原子力発電	2021. 04. 26
鈴木 究	関西電力	2021. 09. 29
大浦 正人	日立GEニュークリア・エナジー	2021. 12. 03

(2) 常時参加者登録解除

宝珍 禎則	日本原子力発電	2018. 07. 03
井上 亮	原子力規制庁	2018. 07. 09
加藤 藤孝	日本エヌ・ユー・エス	2021. 09. 29

(3) 常時参加者登録承認

船橋 泰平 日本エヌ・ユー・エス
山田 悠介 日本エヌ・ユー・エス

(4) 幹事退任

梅原 隆司 原子力安全推進協会 2021. 12. 3

(5) 幹事指名

脇 寿一 原子力環境整備促進・資金管理センター

○LLW 埋設施設検査方法分科会

1. 承認決議事項

(1) 委員選任

宇野 弘倫 関西電力

2. 確認事項

(1) 委員退任

中瀬 辰男 関西電力 2021. 09. 30

(3) 【報告・審議】 (FTC89-3-1～ FTC89-3-3)

“低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法：20XX 一中深度処分編一” 標準原案の中間報告について

(担当：LLW処分安全評価分科会 山岡幹事，中居委員)

LLW処分安全評価分科会 山岡幹事，中居委員からFTC89-3-1～ FTC89-3-3に基づき，題記について説明があり，審議の結果，本内容案で30日間の意見募集を行うことが決議された。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

Q：解説表1「埋設処分の安全確保の全体像とこの標準の位置づけ」(p24)の趣旨及び項目名と要素の出典について知りたい。

A：以前のコメント対応を考え，参考になるものが見当たらなかったため，これまでの経験から今回新たに作成した。

Q：シナリオの設定の部分の「最も可能性の高い状態」は設計プロセスの「最も可能性の高い状態」とリンクしていると考えて良いか。

A：そう考えている。

C：規制を踏まえて民間側でどう考えたか，この標準の特徴はどこなのかを，今後検討する上で踏まえて欲しい。

(4) 【報告・審議】 (口頭説明)

“使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準：202X” 標準改定原案に関する転載許諾等についての標準委員会審議結果の報告について

(担当：リサイクル燃料貯蔵分科会 白井幹事)

リサイクル燃料貯蔵分科会白井幹事から，標準委員会において転載許諾等による修正は文意の変更に伴うものではないことが確認され，コメントなく本標準は再制定することが了承された旨，口頭報告があった。

(5) 【報告・審議】 (FTC89-5-1～FTC89-5-3)

“浅地中ピット処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XXードラム缶形態編一” 標準原案に関する決議投票の依頼について (再々投票)

(担当：LLW 廃棄体等製作・管理分科会 脇幹事，柏木委員)

LLW 廃棄体等製作・管理分科会 脇幹事，柏木委員から FTC89-5-1～FTC89-5-3 に基づき，題記について説明があり，審議の結果，本内容案で 15 日間の決議投票を行うこと，及び可決された場合は次回標準委員会に報告することが決議された。

(6) 【報告】 (FTC89-6)

L1放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況について

(担当：LLW放射能評価分科会 大畑幹事)

LLW放射能評価分科会 大畑幹事からFTC89-6に基づき、題記について説明があり、引き続き確実に対応してゆく旨の報告があった。

主な質疑、コメント等は以下のとおり。

C：本標準の制定目的、規定内容と規制庁の技術評価の目的との間にギャップがあることが対応に苦勞していることの一の原因と認識している。(高橋委員・分科会主査)

C：事業者が技術評価を希望する前の時点で、当該標準が技術評価に相応しいものであるかをよく吟味しておく必要がある。(田村幹事)

C：関係者に苦勞をお掛けしているが、引き続き対応をよろしく願いたい。(高橋部会長)

(7) 【報告・審議】 (FTC89-7-1, FTC89-7-2)

標準策定5か年計画の更新について

(担当：原子燃料サイクル専門部会 田村幹事)

原子燃料サイクル専門部会 田村幹事からFTC89-7-1, FTC89-7-2に基づき、題記について報告があり、審議の結果、会議のコメントを反映させた案で、次回の標準委員会に報告することが決議された。

主な質疑、コメント等は以下のとおり。

C：輸送容器分科会所掌の標準で、今後改定が予定されているものの目標時期を実態に合わせて見直す必要がある。

A：了解。

C：IAEAのクリアランスに関する安全指針の改定手続時期が遅れているのでおり、2022年に記されているRS-G-1.7改定版発行は無い見込みである。これに合わせてしたがって、RS-G-1.7改定版発行の位置は、2023年に修正する必要がある。

A：了解。

(8) 【報告・審議】 (FTC89-8)

倫理教育の受講実績について

(担当：原子燃料サイクル専門部会 田村幹事)

原子燃料サイクル専門部会 田村幹事からFTC89-8に基づき、題記について報告があり、審議の結果、未受講の分科会の最新状況を反映させたもので、次回の標準委員会に報告することが決議された。特にコメントなし。

(9) 【報告・審議】 (FTC89-9)

原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況について

(担当：各分科会代表者等の関係者)

分科会の代表者からFTC89-9に基づき、分科会の活動状況についての報告があった。

6 その他

(1) 【報告】

専門部会傘下の埋設関連標準検討タスクの審議状況について、第2回タスクの議事録に基づき田村幹事より報告があった。

(2) 次回は、2022年5月9日(月)13:30からの開催に決定した。

以上